

名古屋鉄道(鉄軌道事業)の安全に関する取り組み

安全対策

防犯カメラの設置

名鉄名古屋駅などの主要駅に防犯カメラを設置しているほか、9500系・9100系より車両内の防犯カメラ(1両あたり3台)を設置しています。また、駅集中管理システム導入駅にも、駅務機器管理用の監視カメラを設置しており、防犯目的としての使用も可能です。



(上)発光信号との連動 (下)監視画面

踏切監視システム

踏切の事故や機器故障といったトラブルを早期に発見し、復旧に要する時間を短縮するため、踏切機器の動作状況等を遠隔監視する踏切監視システムを交通量の多い踏切等に順次導入しています。また、踏切事故防止のため、車や人をAIで判別し、列車が接近した際に車や人が停滞すると異常を検知して表示装置で列車の乗務員に知らせる仕組みを一部の踏切で試験導入しています。

ホームドアの実証試験を実施

お客さまに駅を安心してご利用いただくため、プラットフォームの安全対策として、名古屋本線金山駅にホームドアの設置を検討しており、2024年10月から実証試験を行っています。



異常時対応訓練



事故車両の復旧作業

踏切施設の復旧作業

災害事故総合復旧訓練

2023年10月に大江駅～東名古屋港駅間において、踏切事故の発生を想定した災害事故総合復旧訓練を実施しました。初期対応から情報収集、お客さまの案内・誘導および車両・施設復旧作業等について、鉄道の各部門が連携した実践的な訓練を行い、指揮命令系統の確認と相互協力体制の確立を図りました。

鉄道テロ対応訓練

車両内や駅構内に不審物が発見された場合などに備え、警察と合同で鉄道テロ対応訓練を実施しています。2024年2月には、大江駅構内にて、愛知県警察と合同で不審物対応訓練と化学剤散布対応訓練を実施しました。

また、主要駅に刺殺、防護盾を配備するとともに、特別車両へ防護盾・防刃手袋を配備し、セキュリティ強化を図りました。

これら護身用具の使用方に関する駅係員等を対象とした講習・訓練についても、警察官の指導のもと適宜実施し、お客さまの安全を確保できるよう努めています。



テロ対応訓練



列車内での不審物対応訓練

社員安全教育

鉄道乗務員教育

乗務員として必要な知識や技能の習得と安全意識の向上を図るため、運転士を養成する鉄道運転士科、車掌を養成する鉄道車掌科、一定期間の乗務経験後に実施するフォローアップ研修など、さまざまな教育・訓練を実施しています。

安全マネジメントに関する教育の実施

鉄道安全管理規程への理解を深め、安全意識の向上を図るため、各教育のカリキュラムのなかで、従業員に対し安全マネジメント教育を実施しています。

安全教育施設「安全考創室」を整備(一般非公開)

安全管理体制を強化する一環として、過去の重大事故・インシデントを整理し、学ぶための安全教育施設「安全考創室」を整備し、2024年4月から運用を開始しました。

社長メッセージ、事故事例映像などを視聴することで、従業員一人ひとりが「安全」を自分事として捉え、実践すべき行動を自らが「考え」、明日の安全を「創り出す」ことを目的としています。



車掌シミュレータによる教習



安全考創室